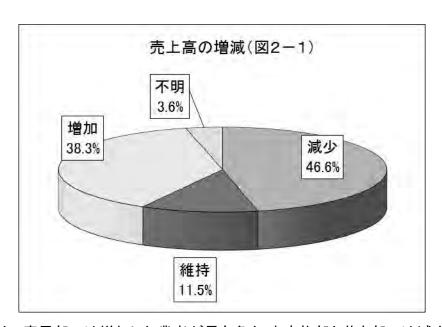
2 営業成績の状況

(1) 売上高の増減

仲卸業者全体のうち、38.3%の業者が前期に比べ売上高が増加した。一方で、46.6%の業者が売上高を減少させている。前年と比べると、増加した業者の割合は1.2ポイント下降し、減少した業者の割合も2.9ポイント下降している。

※ 前年調査 増加 39.5%、維持 8.4%、減少 49.5%、不明 2.6%



部類別にみると、青果部では増加した業者が最も多く、水産物部と花き部では減少した業者が最も多かった。なお、食肉部では増加した業者と減少した業者が同じとなっている。

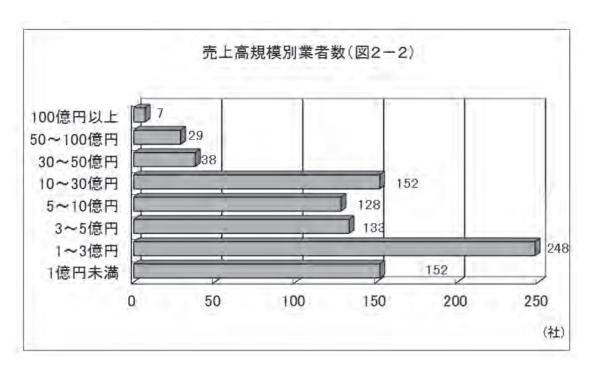
増加した業者 維持した業者 減少した業者 不明 全 体 38.3% 11.5% 46.6% 3.6% 水 産 物 部 35.4% 11.8% 49.2% 3.6% 青 果 44.0% 11.0% 41.9% 3.1% 花 き 48.7% 部 35.1% 8.1% 8.1% 肉 16.0% 4.0% 食 40.0% 40.0%

部類別・売上高の増減(表2-1)

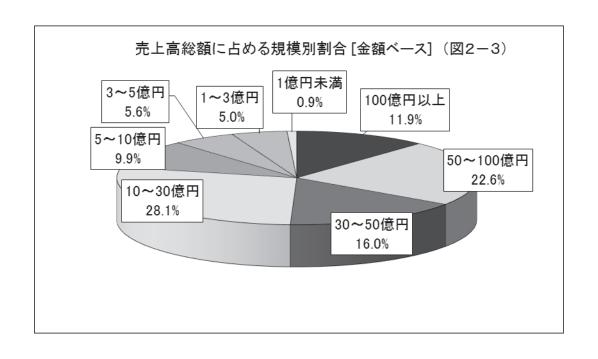
[※] 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(2) 売上高の規模別業者数

仲卸業者全体のうち、売上高1億円以上3億円未満の業者が最も多い。また、売上高が 3億円未満の業者で全体の45.1%(400社)を占めている。



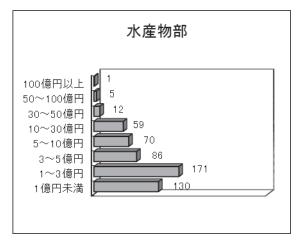
金額ベースにした売上高総額に占める規模別割合でみると、半数近くを占める売上高3億円未満の業者のシェアは5.9%に留まっている。

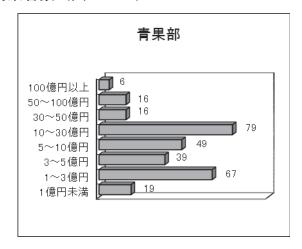


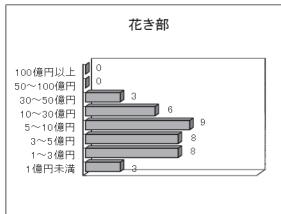
(3) 売上高の規模別・部類別業者数

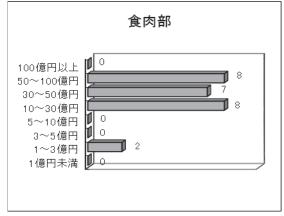
部類別にみると、水産物部では売上高1億円~3億円の層が、青果部では10億円~30億円の層が、花き部では5億円~10億円の層が、食肉部では50億円~100億円と10億円~30億円の層が最も多くなっている。

売上高規模別・部類別業者数(図2-4)









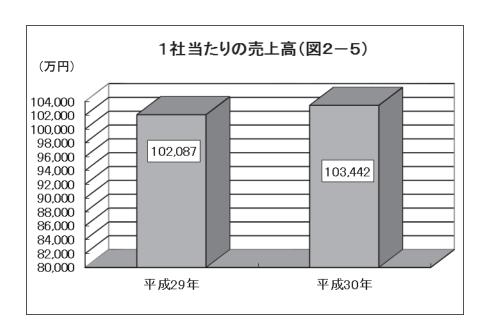
売上高規模別・部類別業者数(表2-2)

単位:社

	全 体	水産物部	青 果 部	花 き 部	食 肉 部
100億円以上	7 (0.8%)	1 (0.2%)	6 (2.1%)	0 (—)	0 (—)
50~100億円	29 (3.3%)	5 (0.9%)	16 (5.5%)	0 (—)	8 (32.0%)
30~50億円	38 (4.3%)	12 (2.3%)	16 (5.5%)	3 (8.1%)	7 (28.0%)
10~30億円	152 (17.1%)	59 (11.1%)	79 (27.2%)	6 (16.2%)	8 (32.0%)
5~10億円	128 (14.4%)	70 (13.1%)	49 (16.8%)	9 (24.4%)	0 (0.0%)
3 ~ 5 億 円	133 (15.0%)	86 (16.1%)	39 (13.4%)	8 (21.6%)	0 (—)
1 ~ 3 億 円	248 (28.0%)	171 (32.0%)	67 (23.0%)	8 (21.6%)	2 (8.0%)
1億円未満	152 (17.1%)	130 (24.3%)	19 (6.5%)	3 (8.1%)	0 (—)
슴 計	887	534	291	37	25

(4) 1社当たりの売上高

仲卸業者全体の1社当たりの売上高は、前年の10億2,087万円から10億3,442万円と、1,355万円(1.3%)増加した。



部類別にみると、前年に比べ水産物部と花き部は増加し、食肉部は減少した。青果部にはあまり変動はなかった。

1社当たりの売上高(表2-3)

		平成 29 年	平成 30 年	増減率
全	体	102,087 万円	103,442 万円	101.3%
水	産物 部	56,574 万円	57,676 万円	101.9%
青	果部	164,250 万円	163,573 万円	99.6%
花	き部	86,849 万円	90,130 万円	103.8%
食	肉 部	409,866 万円	400,783 万円	97.8%

(5) 売上総利益率の変化

売上総利益率(いわゆる粗利益率)は、全体では前年に比べ0. 27%上昇した。部類別にみると、水産物部、青果部及び食肉部では上昇し、花き部では下降した。

売上総利益率(表2-4)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	12.91%	13.18%
水	産物	部	14.47%	14.78%
青	果	部	12.59%	12.91%
花	き	部	18.28%	17.76%
食	肉	部	7.64%	8.04%

売上総利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合をみると、全体では上昇した業者が下降した業者を上回った。部類別でも、全ての部類で上昇した業者が下降した業者を上回った。

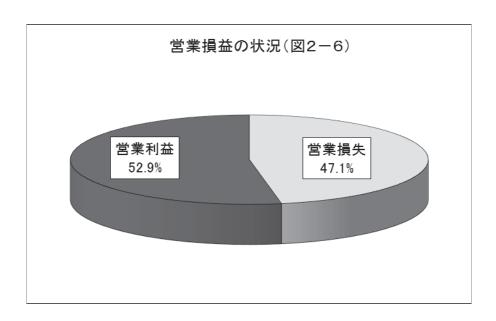
売上総利益率の変化(表2-5)

			上昇した業者	下降した業者	不明
全		体	53.7%	42.6%	3.7%
水	産物	部	52.5%	43.9%	3.6%
青	果	部	54.7%	41.9%	3.4%
花	き	部	56.8%	35.1%	8.1%
食	肉	部	64.0%	32.0%	4.0%

(6) 営業損益の状況

営業利益(黒字)を計上した業者の割合が52.9%、営業損失(赤字)を計上した業者の割合が47.1%となり、前年に比べ黒字となった業者の割合が減少した。

※ 前年調査 黒字:赤字 = 55.0%: 45.0%



部類別にみると、水産物部では半数以上の業者が赤字となり、青果部、花き部及び食肉部では半数以上の業者が黒字となった。

営業損益の状況(表2-6)

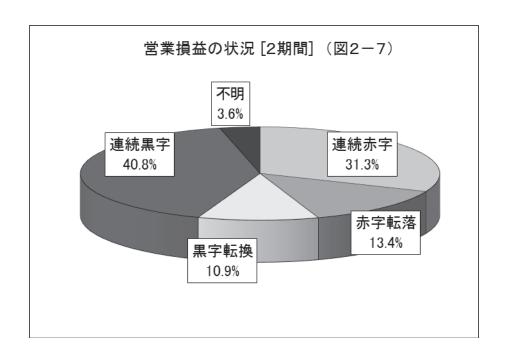
() 内は前年調査の数値

			営業利益 [黒字業者]	営業損失	[赤字業者]
全		体	52.9% (55.0%)	47.1%	(45.0%)
水	産 物	部	48.3% (50.4%)	51.7%	(49.6%)
青	果	部	57.7% (60.3%)	42.3%	(39.7%)
花	き	部	62.2% (61.5%)	37.8%	(38.5%)
食	肉	部	80.0% (83.3%)	20.0%	(16.7%)

(7) 営業損益の状況(2期間)

営業損益が2期連続して黒字計上となった業者は40.8%、2期連続して赤字計上となった業者は31.3%となった。黒字に転換した業者は10.9%、赤字に転落した業者は13.4%となった。

※ 前年調査 連続黒字41.5%、黒字転換12.1%、赤字転落15.6%、連続赤字28.2%



部類別にみると、2期連続して黒字となった業者の割合は、食肉部が最も多かった。また、黒字に転換した業者の割合、赤字に転落した業者の割合及び2期連続して赤字となった業者の割合は、全て水産物部が最も多かった。

営業損益の状況(2期間)(表2-7)

()内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明
全 体	40.8% (41.5%)	10. 9% (12. 1%)	13.4% (15.6%)	31.3% (28.2%)	3.6% (2.6%)
水産物部	36. 2% (36. 9%)	11.4% (12.0%)	14.0% (18.1%)	34.8% (30.0%)	3.6% (3.0%)
青 果 部	45. 4% (48. 1%)	11.0% (11.3%)	13.4% (11.3%)	27. 1% (27. 3%)	3.1% (2.0%)
花き部	48. 7% (48. 7%)	8.1% (10.3%)	10.8% (20.5%)	24. 3% (17. 9%)	8.1% (2.6%)
食肉部	76.0% (58.3%)	0.0% (25.0%)	4.0% (4.2%)	16.0% (12.5%)	4.0% (—)

(8) 営業利益率の変化

営業利益率は、全体では前年に比べ下降した。部類別にみると、水産物部、青果部及び花き部では下降し、水産物部では2期連続して赤字となった。一方、食肉部では上昇した。

営業利益率(表2-8)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	0.59%	0.57%
水	産物	部	△0.01%	△0.02%
青	果	部	0.93%	0.84%
花	き	部	0.74%	0.60%
食	肉	部	0.79%	1.13%

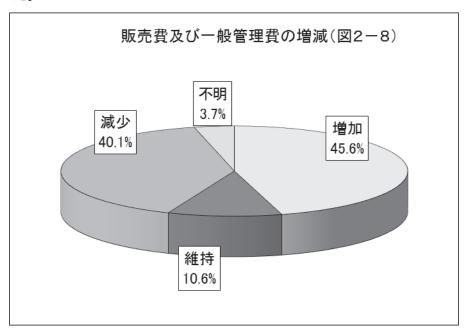
営業利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を部類別にみると、食肉部では上昇した業者が半数を超え、水産物部及び花き部では下降した業者が半数を超えた。青果部では下降した業者が上昇した業者をわずかに上回った。

営業利益率の変化(表2-9)

			上昇した業者	下降した業者	不明
全		体	45. 8%	50. 5%	3. 7%
水	産 物	部	44. 4%	52. 0%	3. 6%
青	果	部	47. 8%	48. 8%	3. 4%
花	ਣੇ	部	40. 5%	51. 4%	8. 1%
食	肉	部	60. 0%	36. 0%	4. 0%

(9) 販売費及び一般管理費の増減

販売費及び一般管理費(以下、「販管費」)が減少した業者は40.1%、増加した業者は45.6%となった。



部類別にみると、青果部、花き部及び食肉部では販管費が増加した業者が減少した業者を上回り、水産物部では増加した業者と減少した業者が同数であった。

販売費及び一般管理費の増減(表2-10)

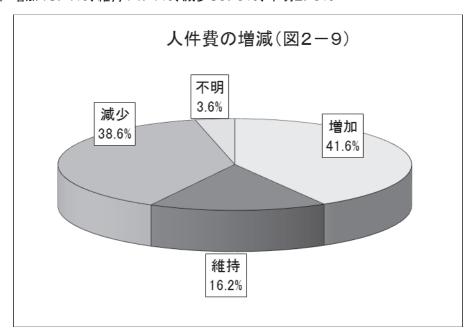
			増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全	全 体		45.6%	10.6%	40.1%	3.7%
水	産物	部	42.9%	10.5%	42.9%	3.7%
青	果	部	49.5%	10.3%	37.1%	3.1%
花	き 部		46.0%	10.8%	35.1%	8.1%
食	肉	部	56.0%	16.0%	24.0%	4.0%

[※] 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(10) 人件費の増減

人件費(※)が増加した業者は41.6%、減少した業者は38.6%、維持した業者は16.2% となり、増加した業者が減少した業者を上回った。

- ※ 人件費 役員報酬、給与手当、福利厚生費、退職共済掛金 等
- ※ 前年調査 増加43.4%、維持14.1%、減少39.9%、不明2.6%



部類別にみると、水産物部と花き部は減少した業者が増加した業者を上回り、青果部と食肉部は増加した業者が減少した業者を上回った。

人件費の増減(表2-11)

			増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明		
全	全 体		体 41.6%		41.6%	16.2%	38.6%	3.6%
水	産物	部	38.9%	17.4%	40.1%	3.6%		
青	果部		45.7%	14.8%	36.4%	3.1%		
花	き 部		40.5%	8.1%	43.3%	8.1%		
食	肉	部	52.0%	20.0%	24.0%	4.0%		

[※] 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(11) 人件費比率の変化

売上高対人件費比率は、全体では前年に比べわずかに下降した。部類別にみると、水産物部と花き部では下降し、青果部と食肉部では上昇した。

売上高対人件費比率(表2-12)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	6.34%	6.30%
水	産物	部	8.23%	7.94%
青	果	部	5.63%	5.77%
花	き	部	9.54%	9.02%
食	肉	部	2.70%	2.90%

売上総利益対人件費比率は、全体では前年に比べ下降した。部類別にみると、水産物部と花き部では下降し、食肉部では上昇した。青果部ではわずかに下降した。

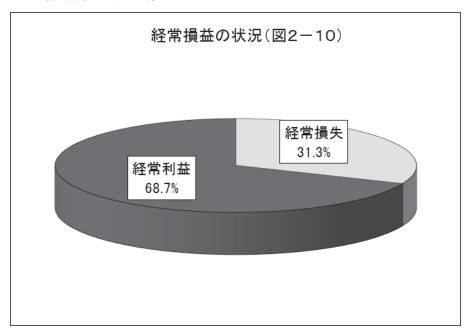
売上総利益対人件費比率(表2-13)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	49.09%	47.81%
水	産物	部	56.90%	53.70%
青	果	部	44.70%	44.69%
花	き	部	52.20%	50.77%
食	肉	部	35.26%	36.09%

(12) 経常損益の状況

経常利益(黒字)を計上した業者の割合は68.7%、経常損失(赤字)を計上した業者の割合は31.3%と、前年に比べ黒字業者の割合が2.9ポイント上昇した。

※ 前年調査 黒字:赤字 = 65.8% : 34.2%



前年と比較すると、水産物部は黒字業者の割合が増加し、青果部、花き部及び食肉部は黒字業者の割合が減少した。

経常損益の状況(表2-14)

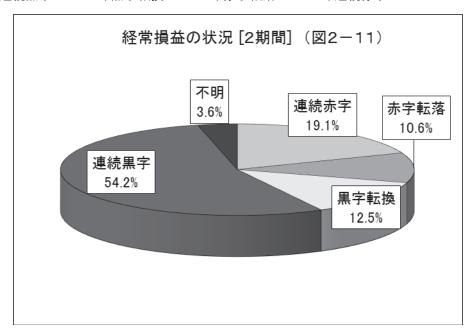
() 内は前年調査の数値

		経常利益 [黒字業者]	経常損失 [赤字業者]
全	体	68.7% (65.8%)	31.3% (34.2%)
水	産物部	65.0% (59.4%)	35.0% (40.6%)
青	果部	74.6% (75.3%)	25.4% (24.7%)
花	き部	62.2% (69.2%)	37.8% (30.8%)
食	肉 部	88.0% (91.7%)	12.0% (8.3%)

(13) 経常損益の状況(2期間)

経常損益が2期連続して黒字計上となった業者は54.2%となり、前年と同じ割合となった。2期連続して赤字計上となった業者は19.1%となり、前年に比べるとわずかに下降した。また、黒字に転換した業者の割合は12.5%、赤字に転落した業者の割合は10.6%となった。

※ 前年調査 連続黒字54.2%、黒字転換10.1%、赤字転落13.9%、連続赤字19.2%



部類別にみると、全ての部類で連続黒字業者の占める割合が最も多く、半数以上となった。

経常損益の状況(2期間)(表2-15)

() 内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明	
全 体	54.2% (54.2%)	12.5% (10.1%)	10.6% (13.9%)	19.1% (19.2%)	3.6% (2.6%)	
水産物部	50.0% (47.0%)	13.9% (10.8%)	9.4% (15.9%)	23.1% (23.3%)	3.6% (3.0%)	
青果部	59.4% (64.7%)	12.4% (9.3%)	13.4% (10.3%)	11.7% (13.7%)	3.1% (2.0%)	
花き部	54.1% (61.6%)	2.7% (5.1%)	10.8% (17.9%)	24.3% (12.8%)	8.1% (2.6%)	
食肉部	84.0% (79.1%)	0.0% (12.5%)	4.0% (4.2%)	8.0% (4.2%)	4.0% ()	

(14) 経常利益率の変化

経常利益率は、全体では0.89%と前年を上回った。部類別にみると、水産物部と食肉部では上昇し、青果部と花き部では下降した。

経常利益率(表2-16)

		平成 29 年	平成 30 年
全	体	0.84%	0.89%
水	産物 部	0.41%	0.56%
青	果 部	1.10%	1.05%
花	き 部	1.01%	0.75%
食	肉 部	0.89%	1.17%

経常利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を部類別にみると、水産物部、青果部及び花き部は下降した業者が上昇した業者を上回り、食肉部は上昇した業者が下降した業者を上回った。

経常利益率の変化(表2-17)

			上昇した業者	下降した業者	不明
全		体	47.2%	49.1%	3.7%
水	産物	部	47.1%	49.3%	3.6%
青	果	部	47.8%	48.8%	3.4%
花	ㅎ	部	40.5%	51.4%	8.1%
食	肉	部	52.0%	44.0%	4.0%

(15) 従事員1人当たり売上高

従事員1人当たり売上高は、全体では前年に比べわずかに減少した。部類別では、水産物部 と花き部では増加し、青果部と食肉部では減少した。

従事員1人当たり売上高(表2-18)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	8,460 万円	8,414 万円
水	産 物	部	6,372 万円	6,481 万円
青	果	部	10,264 万円	9,710 万円
花	き	部	3,734 万円	4,458 万円
食	肉	部	21,619 万円	19,920 万円

従事員1人当たり売上高が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、 水産物部、青果部及び食肉部では減少した業者が増加した業者数を上回り、花き部では増加した業者が減少した業者を上回った。

従事員1人当たり売上高の増減(表2-19)

		増加した業者	減少した業者	不明
全	体	43.9%	52.2%	3.9%
水	産物部	43.8%	52.3%	3.9%
青	果 部	44.3%	52.2%	3.5%
花	き部	54.1%	37.8%	8.1%
食	肉 部	24.0%	72.0%	4.0%

(16) 従事員1人当たり売上総利益

従事員1人当たり売上総利益は、全体では前年に比べわずかに増加した。部類別にみると、 水産物部と花き部では増加し、青果部と食肉部では減少した。

従事員1人当たり売上総利益(表2-20)

			平成 29 年	平成 30 年
全		体	1,092 万円	1,109 万円
水	産 物	部	922 万円	958 万円
青	果	部	1,292 万円	1,254 万円
花	き	部	683 万円	792 万円
食	肉	部	1,653 万円	1,602 万円

従事員1人当たり売上総利益が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、 全ての部類で増加した業者が減少した業者を上回った。

従事員1人当たり売上総利益の増減(表2-21)

		増加した業者	減少した業者	不明
全	体	50.2%	45.9%	3.9%
水	産物部	49.5%	46.6%	3.9%
青	果 部	49.5%	47.1%	3.4%
花	き部	64.9%	27.0%	8.1%
食	肉 部	52.0%	44.0%	4.0%

(17) 従事員1人当たり人件費

従事員1人当たり人件費は、全体では前年に比べわずかに減少した。部類別にみると、花き 部では増加し、その他の部類ではわずかに減少した。

従事員1人当たり人件費(表2-22)

		平成 29 年	平成 30 年
全	体	536 万円	530万円
水	産物部	525 万円	514万円
青	果部	578 万円	560万円
花	き部	356 万円	402万円
食	肉 部	583 万円	578万円

従事員1人当たり人件費が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、水産物部と青果部では減少した業者が増加した業者を上回り、花き部と食肉部では増加した業者が減少した業者を上回った。

従事員1人当たり人件費の増減(表2-23)

		増加した業者	減少した業者	不明
全	体	47.4%	48.7%	3.9%
水	産物 部	47.0%	49.1%	3.9%
青	果部	46.7%	49.8%	3.5%
花	き 部	51.4%	40.5%	8.1%
食	肉 部	56.0%	40.0%	4.0%